

川上奨学金報告書

卒論題目：学歴が人の幸せを左右するとは限らない

—安定した生活に満足感を抱く高卒社会人—

1 調査概要

本研究は、学歴社会を生きる高卒社会人がその後の人生にどのような満足感を抱いているかという調査疑問をもとに、彼らの高校時代の進路選択から現在の生活に至るまでを論じたものである。

調査方法は、主にインタビュー調査を基本とし、1期調査と2期調査に分けて行う計画を立てた。しかし、分析に入った時点で社会人経験が長い高卒社会人のデータも必要であるという考えに至り、追加のインタビュー調査を行った。また、分析においては、いくつかの文献を使用し、論文の作成に役立てた。

2 結果報告

本研究では計11人の高卒社会人にインタビューをした。そしてその結果、大きく分けて3つのことが明らかになった。ひとつめは、高卒社会人の進路選択は自分の意思のほかに、家庭の金銭的事情や親の職業が影響しているということである。ただ、さまざまな理由で進学を断念したという人がいる一方で、自分の学力や大学へ行くことの価値を考えて、あえて就職を選んだという人がいることもわかった。特に、自ら就職を選んだ彼らは、自分のやりたいことや自分に合っていることを早くから見つけているのが印象的だった。

ふたつめは、高卒社会人は、給与や昇格のスピードにおいて大学卒や専門学校卒よりも劣る条件で働いているという点である。中でも、大学卒や専門学校卒と労働環境を共有することが多いホワイトカラーの高卒社会人の方が、待遇差を感じていた。しかし、本研究の調査対象者であるホワイトカラーの面々は、そのような格差をさほど批判的に捉えてはおらず、受け入れながら仕事と向き合っていた。

最後は、高卒社会人が抱く満足感は、今の生活がもたらす安定や仕事のやりがい強く影響しているということである。本研究では、仕事以外のものに生きがいを見出し、今の生活を充実させているケースが多く見られたが、中には、将来的な安定までも見据えて仕事を選んでいる人も存在した。そして彼らは、今の状況に、ある程度の満足感を抱いていた。

このことから、人が満足できる生活を送れるかどうかを左右するものは、必ずしも学歴であるとは限らないといえよう。